

開催日: 8月18日(月)

会場: 和田コミュニティセンター

参加者数: 22人

◎テーマ①: 寺町廃寺跡の計画

【趣旨説明(和田自治連合会)】

文化遺産である大東瓦窯跡及び寺町廃寺跡の計画について、現状を教えてください。

参加者の発言	市の発言	備考
<p>史跡である寺町廃寺跡の整備計画について、昨年度、市教育委員会が基本計画をつくれる際には、地元町内会や住民自治組織への説明会があった。その時点で様々な意見が出ている。今回の計画自体は、寺町廃寺跡の整備であり、その範囲は史跡に指定されている部分に関するものである。まず、寺町廃寺については、排水対策や鳥獣被害対策を進めてほしい。不指定地においては、排水が下流部へ流れていくが、下流部では未整備箇所もあることから、下流部も含めて排水対策をしっかりとしてほしい。また、駐車場やトイレの問題についても、今回の指定地内の計画の中では具体的にはなっていないため、検討して進めてほしい。さらに、現地案内をする際にリアリティを感じてもらうためにも、瓦の展示や資料館を整備してほしい。和田地区には、史跡に指定されている大東瓦窯跡があるが、今回の整備対象にはなっていない。将来的には、大東瓦窯跡から寺町廃寺跡を結ぶ遊歩道を整備してほしい。これらの地元説明会で出された主な意見について、総括的な回答をしてほしい。</p>	<p>寺町廃寺跡の整備事業は、平成29年から着手した。今年の2月に、地元町内会と住民自治組織への説明を行った。整備スケジュールは、昨年度に整備基本計画を策定し、今年6月中旬から、基本設計の策定に入っている。その中で、排水対策等については、8月の終わりから9月の初めごろに現地調査に入る予定である。その調査結果をもとに、排水路を設計していきたい。寺町廃寺跡の整備事業は、国の史跡であるため、文化庁の指導に従って進めることとなっている。まずは、寺町廃寺跡の遺構を整備するという指導があり、今、全力で取り組んでいる。難しい面もあるが、駐車場やトイレをはじめ、大東瓦窯跡についても活用の観点から検討していきたい。引き続き、設計内容の説明をし、地元の皆さんの意見も聞きながら進めていきたい。</p>	
<p>検討はいいので、早く実施してほしい。子どもや孫たちに見せたいが、それができない状況である。現場へ上がることが困難であるとともに、排水や駐車場が不十分である。発掘作業をしても、保存のためにすぐに埋めてしまう。保存するためには屋根をつくれればいいのか。そのような状況であり、地域以外の人を案内しても、説明することもできない。地元の宝であるので、前向きに進めてほしい。弊害があることは理解しているが、次回は完成したという報告を聞きたい。</p>	<p>国の史跡であり、文化庁と連携していく必要がある。今年度は基本設計をつくり、来年度に実施設計をつくる予定である。その実施設計ができれば、整備工事に着手していく。現在、遺構跡の講堂があった場所などに少し色をつけるような計画となっている。これをより具体化するために、今回の基本設計に入るということであり、引き続き、経過説明をさせていただきたい。</p>	
<p>・市教育委員会による説明会があり、立派な計画と思った。市による年2回の草刈りでは間に合わないため、地元有志で年3、4回の草刈りをしている状況である。地元の期待は大きい。子どもたちに帰ってきてもらえるように、または誇りを持ってもらえるように立派なものができると思う。現在、和田地区では住民自治組織の予算を使用し、小学校の高学年が保護者と一緒に輪銅乗船できるようにしている。寺町廃寺についても、自信と誇りが持てる、夢のある整備ができるように思っている。市教育委員会と話をすると、予算がないと言われる。後悔が残らないように整備してほしい。今、市教育委員会が中心になって実施計画を策定しておられるが、市長からも、予算を心配せず後世に誇れる整備をするように指示してほしい。</p> <p>・できた施設をどう活用するのか。子どもたちの学習資料や地元の憩いの場にもなる。地域外からもお越しいなと思う。三次市内には文化財がたくさんある。基本計画の中では、文化財の周遊ルートについて触れてあるが、策定委員会による詳細な言及はなかった。市が総合的に観光ルートをつくるという意味だと受け取った。寺町廃寺跡、みよし風土記の丘や陣山墳墓群などから、三次ワイナリーやトレッタみよしなどを有効につなげて、訪問客を呼び込めるような観光戦略を立てる必要があるのではないか。ソフトの部分も合わせて考えていく必要がある。私たちもできるだけの協力をしていきたい。今後は、観光ボランティアも必要になり、地元の人で説明できるようなものにもしたい。また、瓦などを実際に触ることができるように工夫してほしい。</p>	<p>文化財の利活用については文化庁も進めていることから、みよしDMOからも策定委員会に参加していただいている。ソフト面は大切であると思っており、小学生には副読本として作っているが、もう少し何か工夫ができないかということも市教育委員会による検討をはじめている。</p>	

令和7年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日:8月18日(月)

会場:和田コミュニティセンター

参加者数:22人

◎テーマ②: 鳥獣被害対策、農業の担い手等

【趣旨説明(和田自治連合会)】

鳥獣被害は三次市に限らず、全国的な問題である。

参加者の発言	市の発言	備考
10年ぐらい前はイノシシの被害が出ていたが、ここ数年は、シカの被害が多くなり、地域では日々、悩み苦しんでいる。シカやイノシシの被害は全国的な問題である。10年前から、狩猟免許を取得して、田んぼの周りにワイヤーメッシュを張ると同時に、箱ワナで駆除している。狩猟期間は、市に報告することで報奨金が出る。狩猟期間以外は、市農政課から許可をもらって、駆除している。現在、自分を入れて4名で、紙屋集落の捕獲活動をしている。猟期以外にも報奨金を出すなど、やる気を出すようにしてほしい。	猟期中には、一頭2,500円の報奨金を出している。これまでも、猟期以外の個人駆除に対する報奨金については要望もあり、近隣市町を参考にしながら、限られた財源の中で検討していく。	
シカ対策のため、ノリ網を共済組合で購入したが、補助金が出ない。ノリ網購入にも補助金を出してほしい。高さ2mのワイヤーメッシュを変えたが、約50万円の購入費用がかかった。今後も、購入を計画している。	ノリ網は、ワイヤーメッシュに比べて耐用年数が短く、効果も低いため、補助対象外の資材としている。	
中山間地域等直接支払制度の交付金が減額になる。近隣の集落と一緒に活動すれば、従来通りの交付金であるが、そうしない場合は、減額される制度になっている。過去の制度を見直して、三次市独自の補助制度をつくってほしい。	国の制度における単価は変わっていないが、交付を受けるための取組内容について年々、ハードルが高くなっている。三次市の第2期農業振興プランは今年度終了する。第3期プランの策定に向けて、中山間地域の課題等も整理しながら、三次市の現状を分析して、新たな補助金や対策を検討していきたい。その際に、皆さんからいろいろな意見をいただきたい。	
農家からすれば、一度入られたらひどいことになる。耐用年数より実際の被害軽減を重視し、ノリ網も補助対象にしてほしい。	現在のところ、ノリ網は対象とは考えていない。	

令和7年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日:8月18日(月)

会場:和田コミュニティセンター

参加者数:22人

◎テーマ③: 地域と学校のつながり

【趣旨説明(和田自治連合会)】

今年の3月に、三次市立小・中学校のあり方に関する基本方針が定められた。和田地区ではこの方針について、みんなで議論できていない。方針にあるように、子どもにとってよりよい環境をつくるのが基本にあると思う。その基本を前提としても、実際に学校の再配置があれば、地域への影響がある。基本方針にある「従来の地域の捉え方や枠組みを広げ」や、「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の中で、地域の定義や学校のあり方を総合的に考えていく」とは具体的にどういう意味か。

参加者の発言	市の発言	備考
	<p>現在、人口減少、少子高齢化の中で、あらゆる分野での担い手の減少、経済規模の縮小、地域のつながり等の機能低下、社会経済環境の急激な変化が想定されている。その中で、従来の地域だけでなく、市内の事業者、団体、大学等も含めた多様な主体との連携によって、つながりを広げていくことを第3次三次市総合計画にも掲げている。つながりによる共創をめざしていきたい。例えば、コミュニティ・スクールについては中学校区で取り組んでおり、子どもたちの成長を支えていただいている主体、つまり、学校を取り巻く関係者、保護者や地域住民などが連携、協働していく。今後も人口減少や少子化が進む傾向にあり、子どもたちの学びの環境として、現在の枠組みのままでいいのかという問題提起もあり、今回、あり方に関する基本方針をつくった。また、学校教育についても、一斉に授業して、知識や技能の習得をしてきたところがあるが、それに加えて、思考力や表現力、学びに向かう力などの人間性の育成も重視されるようになってきた。具体的には、プログラミング教育や課題解決型の学習、体験学習をやっていくように転換されてきている。このようなことも背景として、学校の再配置を含めて、学校のあり方に関する基本方針を策定させていただき、再配置によって学校が関わる地域が広がることをメリットとして、最大限生かす取組を進めていきたい。</p>	

令和7年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日:8月18日(月)

会場:和田コミュニティセンター

参加者数:22人

◎テーマ以外

参加者の発言	市の発言	備考
<p>三次市内には外国人は何人住んでいるのか。住みやすい地域のためには犯罪がない方がいい。三次市としての犯罪防止対策はあるのか。</p>	<p>・三次市在住の外国人数は毎月把握しており、直近では約800人である。現在、多くの企業が従業員として採用しており、増加傾向にある。外国人の犯罪に対する取組はしていないが、市内生活を支援する取組を行っている。日本語教室、外国人同士の交流や日本人も交えた交流などを自主的に主催している団体がある。また、市国際交流協会でも取組をしている。今後も、市として、相談体制を整えていく。</p> <p>・市内企業に聞くと、人手不足は共通の課題である。労働力の確保をどうするのか、テクノロジーの活用で人手不足をカバーできる分野もあるが、人間がやらなければいけない業務もあると思う。そのため、外国人を雇用して、そして労働力の確保につなげていく企業も増えてきている。現在、三次市では、労働力の確保につなげていくため、外国人を雇用する経費の一部を補助している。特に、福祉・介護や建設などの分野においては人手不足が顕著になると言われており、関係者と意見交換をしながら進めていく。働き手の確保に関する抜本的な対策について研究している。新年度の予算において対応できるように、準備していきたい。</p>	
<p>物価高騰やアメリカの関税政策など、生活に直結する問題について、市はどのように対応されるのか。</p>	<p>物価高騰対策については、国全体で対応しなければならない大きな課題であり、市だけで対応できるものではない。これまでも国の物価高騰対策を活用して対応してきており、本年6月の市議会定例会においても、物価高騰対策に関する予算を計上し、今まさに支援が必要な人への対応をしているところである。今後も、物価高騰は続いていく見込みであり、市民の生活実態をしっかり把握して、国の物価高騰対策と歩調を合わせ、支援が必要な方に必要な支援が届くように対応していきたい。</p>	
<p>年々、暑さが増しており、プールや体育館などにおいて子どもたちの学びに制限がかかる場合がある。冷房が効かない部屋もある。体育館は避難場所に指定されているが、夏の蒸し暑い中、体育館に避難することが安全なのかどうか疑問を感じる。また、暑い時間帯における子どもたちの下校について、負担が大きく、保護者も不安である。他の自治体では、ネッククーラーを冷やすための冷凍庫を学校へ設置しているところもある。市で熱中症対策を考えてほしい。</p>	<p>年々暑くなっており、今年は特に暑い日が続いたため、プールの授業ができない日がかかりあり、子どもたちも残念に感じている。全ての普通教室にはクーラーをつけており、特別教室にも順次つけている。状況によっては、特別学級の授業を普通教室でしている。今年は、スポットクーラーを各学校の体育館に設置した。スポットクーラーでは全体を涼しくすることはできないが、スポットクーラーの当たっているところには風が行くことから、何とか涼しさを保っている状況である。全ての体育館にクーラーをつけることができればいいが、基本的に、体育館は古いこともあり、クーラーを設置できる仕様にはなっていない。また、体育館全体を冷やすためには、断熱材を入れないとなかなか難しい。市内の学校数も多く、クーラーを設置することは難しいことから、今回、スポットクーラーを整備した。学校の熱中症対策については、文部科学省からもガイドラインが出ており、各学校において、校長先生を中心にいろいろな配慮をしている。意見を参考にさせていただく。</p>	